廃人少女とゴシック少女

星空ナルミ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

廃人少女とゴシック少女

【Ｎコード】

Ｎ９０３１Ｘ

【作者名】

星空ナルミ

【あらすじ】

引きこもり体質でネトゲ廃人の紅螺柘榴（せきらざくろ）は同じゲームユーザーのサファイアに会いにいく。しかしそこにいたのは女の子で……真逆な二人の友情？と一人の恋を描く物語。

第0スレめ

世の中にはヲタク、廃人と呼ばれる者がいる。

ここにいる彼女、紅螺柘榴（せきらざくろ）も廃人と呼ばれる一人である。

人気のネットゲーム「Ｅｄｅｌｓｔｅｉｎ（エーデルシュタイン）」のユーザーでハマりにハマったためいつの間にかネトゲ廃人になっていた、というところだ。

毎日同じゲームユーザーと会話するのが日課であり、今では生活の一部と化している。

「んー…あ！サファイア来てる！」

ーーーーーー

ガーネット：こんばんはーサファイアさん☆

サファイア：こんばんは、ガーネット。

ガーネット：こんな時間にお会いするなんて久しぶりです☆

サファイア：そうだねｏ（＾－＾）ｏところでガーネット、一つお願いがあるんだけど聞いてくれるかい？

ガーネット：お願いですか？いいですよ☆

サファイア：君に会いたい

ーーーーーーー

「えっ？私に…？」

一瞬頭の中が真っ白になった。あいたいなんて言われたのは初めてで、しかもそれが好きな人。廃人な私をいくらサファイアでも嫌と言うだろうな。

ーーーーー

ガーネット：私は可愛くも綺麗でもないし、会うだなんてとんでもないです（＜＿＞）

サファイア：そうか？僕は君がどんな姿でも気にしないよｏ（＾ー＾）ｏ君に会ってみたい。明日よかったら会いに来て。●●●駅前で待ってる。

ーーーーーー

返事を書き込まずパソコンを閉じると柘榴はベッドに沈んだ。

「明日か……」

第0スレめ　2

翌日。

私は久しぶりに外に出ることにした。…と言っても太陽の光が眩しいので極力目立たない格好、紫外線カットの為にフードを被って、だけれど。

「（…サファイアどんな格好してくるんだろう…というかそもそも実際の性格とかどんな人とか知らないし！…怖い人だったらどうしよー…）」

「…ガーネット…さん？」

「Σふぇっ？」

びくっとして振り返るとそこには青年ではなく代わりに黒ずくめの少女が立っていた。

「…え…？サファイア…さん？」

「…ってことはあなたがガーネットか。なるほどー、如何にもって感じの廃人さんね」

「Σはぁ！？初対面でいきなり廃人ってなによ！！私が会いたいのはサファイアなの！あんたみたいな黒ずくめに会うな…！？」

「まったく、人の話を最後まで聞きなさい。…わたしはサファイアに頼まれたの。代わりに会いに行ってほしいって」

「そんなのありえない！（怒）サファイアに会わせて！！」

「まーまー、そう怒らずに。あなたの名前は？」

「…赤螺柘榴」

「せきらざくろ、ね。わかった。今日から柘榴はわたしの友達だから」

「Σはぁ！？」

「わたしの名前は碧依瑠璃（あおいるり）だから。よろしく、柘榴ちゃん♪」

無理やり手を握らされ握手。

にこにこ笑う瑠璃にいらいらしつつもとりあえずその場から移動することになった。

ずっと引きこもっていた所為なのか、瑠璃の言う流行りものだとか、この店はいいだとか、そういう話を聞いてもついていけない。どう反応したらいいのか分からず迷っていると突然瑠璃がこんなことを口にした。

「…柘榴ちゃん、楽しくない？」

「いや…そんなことはないけど…あえて言うなら」

「言うなら？」

「突っ走りす…」

「ああ～っ！」

…ぎ、と言おうとしたが遮られた。私、なにかしたっけ？

「柘榴ちゃん！ケーキバイキング今日までなの！付き合って！」

「ちょっ…瑠璃！？」

言われるがまま連行され連れて行かれる。

第0スレめ　3

あれから数時間。私は瑠璃にケーキバイキングに付き合わされたあと、あちこち振り回された。

ゲーセン、ボーリング、カラオケ、ビリヤード、ダーツ等々…瑠璃は疲れた表情一つ見せずにどれも楽しんでいた。私のことを気にしてるのか時々大丈夫？と声をかけたりしてきたけれどあまり答えなかった。

帰り際、瑠璃はまたね、と手を振って帰って行ったのを見送り、私も家へと向かった。

ーーーーーーー

ガーネットさんが入室しました

サファイア：こんばんは、ガーネット。今日は会ってあげられなくてごめんね。急用が入ったから代わりに彼女に任せたのだけれど…

迷惑だったかな？

ーーーーーー

「蒼！」

「兄さん…どうかしたの？」

「いや、任せちゃって悪いなと思ってね。楽しいかい？」

「うん、まあね。兄さんはもうサファイアとしてガーネットと話さないの？」

彼女の名前は蒼。俺の妹だ。おっと紹介が遅れた。俺の名前は黒蛸紫遠。サファイアとしてネットゲーム「Ｅｄｅｌｓｔｅｉｎ」にいたが諸事情で今はサファイアを妹である蒼に任せている。

「ああ、まだ俺は出る幕じゃない。」

「…？」

「蒼にもそのうち分かるさ（笑）」

「んー……」

ーーーーーーー

ガーネット：サファイアさん、来てくれると思ったのにお会い出来なくて残念です（＜＿＞）…ラピスラズリさんって？

サファイア：ああ、君は知らなかったのか…ラピスラズリは同じゲームユーザーさｏ（＾－＾）ｏ

ーーーーーーーー

「ゲームユーザー…か。どんな人なんだろ……」

美人な人…とか？

ぐるぐると考えを巡らせたけれどわからなかったのでとりあえず「仮眠」だけれど寝ることにした。

第1スレめ

翌朝。パソコンを起動したら新着メール一件と表示されていた。

「メール？」

ーーーーー

柘榴へ

やっほー元気？

昨日はありがとー☆

あ、アドレスはサファイアからききました（笑）

また一緒に出かけようね！拒否権はないから！それじゃね～

瑠璃

ーーーーーーー

「……（怒）」

…瑠璃からのメールにむかついたので頭を冷やしに行こうか。

メールを速攻ブロックフォルダーに入れると私は気分ごなしに買い

出しへ向かった。

「なに食べようかな〜…」

廃人、と言えどちゃんと食事は取らないとね。…ん？あの人…視線を向けるとちょっと先に青年がいるのが見えた。多分年齢は同じくらいだろうか…

「（同い年くらいかな…）」

「ん？…こんにちは（微笑）」

「あっ…こんにちは」

「そんなに緊張しなくてもいいよ（笑）この近所の人？」

「…はい…」

「ここで会ったのも何かの縁かもね。僕は黒蛸紫遠。君は？」

「赤螺柘榴…です」

「柘榴ちゃん、ね。おっと、時間だからそれじゃ僕はこれで。またね」

にこやかに去っていく姿に柘榴は無意識にサファイアを重ねていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9031x/

廃人少女とゴシック少女

2011年10月28日11時05分発行